

令和5年度 0歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和5年度　　0歳児　年間指導計画　さきたま保育園				園 長		副 園 長		担 任	
年間目標	◎保健的で安全な環境を整え、様々な経験を通して身体及び感覚機能を伸ばす。 ◎落ち着いた家庭的な雰囲気の中で、個々の欲求を満たしていき、抱いたりほほ笑みかけたりしてゆったりと関わり、情緒的に安定して過ごせるようにする。 ◎安心できる環境の中で伸び伸びと生活し、見たり触ったりする経験を通して身の回りのものへの興味や関心が持てるようにする。			健康 安全 災害	・視診・検温を毎日行い、感染症の早期発見、予防に努める。 ・乳幼児突然死症候群を予防する。 ・保育室内の安全点検、環境整備を行い、日々怪我や事故、誤飲の予防に努める。 ・一人ひとりの離乳食状況を把握し、複数の保育者で確認しながら配膳する。		一年間の保育に対する自己評価		
期	1期（4月～5月）			2期（6月～8月）		3期（9月～12月）			4期（1月～3月）
ねらい	・保護者と連携し、一人ひとりの生活リズムに配慮して関わることで、徐々に園生活に慣れ、安心して過ごす。 ・保育者との愛情豊かで応答的な関わりによって、安心感を持ち、信頼関係を築いていく。			・保育者に親しみをもち、欲求を受けとめ、満たしてもらいながら安心して過ごす。 ・身体を十分に動かして遊び、汗を拭いてもらったり着替えをしたりする心地よさを感じるようにする。 ・快適に過ごせるよう衛生面に配慮し、一人ひとりの体調を把握して沐浴を行う。		・安心できる環境の下、探索活動を十分に楽しみ、意欲や興味を広げていく。 ・衣服の着せすぎに気を配り、体調の変化に留意しながら、戸外遊びや探索活動を楽しむ。 ・保育者や他児との関わりを楽しみ、自分の欲求を表情や身振り、片言で表現しようとする。			・安定した環境の中で、探索活動を通して様々なものに触れ、感覚や運動的な遊びを楽しむ。 ・自分なりの表現で思いを伝えることを十分に受け止めてもらい、保育者や他児との関わりを楽しみながら安心して過ごす。
月齢・年齢	3か月～ 6か月未満	6か月～9か月未満		9か月～12か月未満		1歳～1歳3か月未満			1歳3か月～2歳未満
子どもの姿		・ミルク（母乳）だけの食事から、離乳食も食べるようになる。 ・7、8か月の頃から食品の種類や量も増え、かむ機能、飲み込む機能が発達する。 ・少しずつ支えのいらぬおすわりをする。 ・初めは腹ばいで後ずさりし、次に前方へ進めるようになり、ハイハイで移動するようになる。		・少しずつ園での生活に慣れ、好きな遊びを見つけて楽しむようになる。 ・保育者の語り掛けに、うれしそうに声を出したり、「アーアー」「マンマ」などの喃語や仕草で伝えたりする。 ・目の前にある物や、見つけた物を指さし、指さしによる三項関係も成立する。 ・ハイハイからつかまり立ち、伝い歩きなどの歩行への意欲が出てくる。		・つかまらないでひとりで立ち上がり、ひとり立ちする。 ・手を支えてもらおうと歩き出し、やがてひとりで歩く。 ・乳歯は前歯が4本ずつ、上下で8本になる。（幼児食への移行が始まる） ・「ママ」「ブーブー」などの意味のある言葉を使うようになり、保育者の真似をし始める。 ・イヤイヤしたり自分の要求を通そうとしたりするが、気が変わりやすい。			・手すりを持って階段を上り下りする。 ・小走りで移動したり、少しの高さから飛び降りたりする。 ・大人の行動を真似しようとし、着脱や食事を自分でしようとする範囲が広がる。 ・簡単な問い掛けが分かり、指差しや簡単な言葉を話して答える。 ・「○○ちゃんの」と自分の名前を使って自己主張する。 ・他児と同じ場所で遊ぶが、並行遊びの段階。他児よりも玩具への関心が強いと、物を取り合いや噛みつきが出てくる。 ・自分の欲求を強く主張しながら大人の反応を観察している。
養護 （生命の保持○・ 情緒の安定◎）		○登園時の健康観察を丁寧に行い、家庭での様子（体調・食事量・睡眠時間等）を確認する。 ○探索活動を十分に楽しめるよう、小まめに保育室内の点検・確認を行う。 ○伸び伸びと身体を動かせるよう広いスペースを確保する。 ◎表情や喃語に応答的に関わり、子どもが安心して自分を表現できるようにする。 ◎特定の保育者と触れ合い、安心して過ごせるようにする。		(2歳未満まで) ○気温や気圧による体調の変化に留意し、無理せず過ごせるよう、室内の温度や戸外遊びの時間を調節する。 ○個々の体調に合わせて沐浴を行い、暑い季節を快適に過ごせるようにする。 ◎発散・リラックスなど活動内容のバランスや調和を図り、適切に休息がとれるようにする。 ◎人見知りや後追いには担任間で連携し、特定の保育者が欲求を満たしていくことで心の安定を図っていく。		○寒暖差に留意し、衣服を調節することで健康を守る。 ○はう、立つ、歩くなど伸び伸びと身体を動かして遊べるような安全な環境を整える。 ◎欲求を丁寧に受け止め、言葉や表情で応答的に関わり、共感してもらう喜びや発語の意欲につなげていく。 ◎発語を繰り返したり、「○○で嬉しいね」「○○が嫌だね」等と事象と気持ちが結び付く代弁をしたりする。			○動きたい気持ちを受けとめ、十分に身体を動かせるような活動内容、環境を設定する。 ○自分でやってみようとする気持ちを受けとめ、取り組めるように配慮する。 ◎様々な思いを受け止め、安心して自分を表現できるような温かい雰囲気を作る。 ◎簡単な問い掛けをしながら、言葉でのコミュニケーションを積極的に行い、語彙を増やしていく。
教育 （三つの視点） ●健やかに伸び伸びと育つ ◆身近な人と気持ちが通じ合う ▲身近なものに関わり感性が育つ		●◆安心できる保育者におむつ交換や着替えの援助をしてもらいことで、清潔になる心地良さを感じる。 ●伸び伸びと身体を動かして遊ぶ。 ◆応答的に関わってもらい、やりとりを楽しむ。 ▲身の回りものや素材に触れ、感触を楽しむ。		●園での生活リズムが安定し、活発に動く。 ◆保育者に親しみをもち、共に過ごす中で信頼感が芽生える。 ▲慣れた環境の中で探索活動を楽しみ、身の回りのものを見たり、触ったりして自ら関わろうとする。					
教育 （●健康・◆人間関係・ ▲環境・■言葉・★表現）									

環境構成 援助 配慮		<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活リズムや体調に合わせて落ち着いて生活できるようにする。 ・点検の日を設定し、定期的に保育室内の環境を見直し、事故や怪我の防止に努める。 ・個々の発達のペースに寄り添い、それぞれに合わせた援助を行う。 			
		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の保育者との関わりを密にし、安心して身を預けられるような関係性を築いていく。 ・慣れない環境への不安感をしっかり受け止め、家庭的な雰囲気の中で関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・柵や壁に仕掛けを作ったり、手押し車などの立ち上がって遊べるような玩具を準備したりすることで、全身運動への意欲を高める。 ・発語や指差し一つひとつを丁寧に受け止め、心を通わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃの内容を見直し、子どもの関心や意欲を高める環境を整える。 ・気持ちを代弁しながら言葉によるコミュニケーションを積極的に行き、発語への意欲を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを先回りした援助に注意し、やってみようとする気持ちを十分に受け止め、満足感が得られるようにする。 ・他児と一緒に過ごす楽しさを感じられるよう、互いの気持ちを代弁しながら仲立ちしていく。

月 齢 ・ 年 齢	3 か 月 ～ 6 か 月 未 満	6 か 月 ～ 9 か 月 未 満	9 か 月 ～ 1 2 か 月 未 満	1 歳 ～ 1 歳 3 か 月 未 満	1 歳 3 か 月 ～ 2 歳 未 満
子育て支援 （保護者支援）		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子について共通認識を図り、子育てに対する不安感を取り除いていく。 ・保護者とのコミュニケーションを密にとり、家庭と園の様子(体調・食事量・睡眠時間等)を共有していく。 ・離乳食状況を聞き取り、園での食事状況を伝え、家庭と園で同じ援助ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と園の様子を伝え合い、生活リズムを安定させていく。 ・離乳食状況を聞き取り、 ・汗によって着替える回数が多くなるため、肌着を十分に用意してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自我の芽生えは、成長の一つであることを伝え、園での関わり方を共有しながら悩みを受け止めていく。 ・生活習慣の自立の過程について話し合い、喜んだり、課題を確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でやろうとする気持ちを受け止めてもらうことで満足感や意欲につながることを伝え、園での関わり方を共有する。 ・他児への興味が出てきていることや関わりが増えてきていることを伝え、起こり得るトラブル(おもちゃの取り合いや手出し等)をさり気なく伝え、予測してもらう。
食育		<ul style="list-style-type: none"> ・色々な食材の味や舌触りに慣れ、ゆったりとした雰囲気の中で食べることを楽しむ。 ・空腹感の訴えを保育者に受け止めてもらい、食べさせてくれる人に関心を持つ。 ・口をしっかりと動かして離乳食を食べる。 ・食事の前後に挨拶があることを知る。 ・「美味しいね」「お腹いっぱいだね」と気持ちを代弁し、楽しく食事ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手づかみで食材の感触を楽しみながら進んで食べる。 ・よく噛んでから飲み込めるよう、「モグモグ」「カミカミ」「ゴックン」などと声を掛けながら援助を行う。 ・スプーンやコップを持つことに慣れ、親しみを持つ。 ・食事中、背中や足裏が安定するようにする。 ・挨拶をして食べられるよう、手を添えて一緒に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な食材に慣れ、よく噛んで食べる。 ・スプーンを持って食べようとしたり、コップや器を持って飲もうとしたりする。 ・スプーンに一口分の食べ物を乗せたり、食べ物が少なくなってきたら器の一方に集めたりと個々に合った援助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べこぼしながらも、手づかみやスプーンで最後まで自分で食べようとする。 ・口の中に食べ物を詰め込み過ぎないよう見守り、口の中の食べ物が無くなってから次を口に入れられるよう声を掛けながら関わる。 ・食事中、落ち着いて自分で食べようとする。
長時間保育		<ul style="list-style-type: none"> ・早番、遅番保育士との引き継ぎを丁寧に行う。 ・家庭的な雰囲気の中で欲求を受け止めてもらいながら徐々に早番・遅番保育士に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な環境の中で、早番・遅番保育士と安心して関わる。 ・異年齢児と同じ空間で過ごすことに慣れ、興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味を持ったおもちゃを自分から手に取り、自由に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士や異年齢児と関わることを楽しみ、穏やかに過ごす。
期	1 期 （ 4 月 ～ 5 月 ）		2 期 （ 6 月 ～ 8 月 ）	3 期 （ 9 月 ～ 1 2 月 ）	4 期 （ 1 月 ～ 3 月 ）
年齢別研修	テーマ「すこやかな育ち」 サブ「保育の質の向上」 内容「子どもを尊重する保育」のために				
自己評価					

令和5年度 1歳児 年間指導計画 さきたま保育園

		園長		副園長		担任	
年間目標	・安心できる保育者のもとで、食事や排泄、着脱など身の回りのことに興味をもち、自分でしようとする。 ・生活や遊びを通して、感触や発見を楽しんだり様々な経験をし豊かな感性や表現が育つ。 ・保育者や友達との関わりを通して言葉を覚え、気持ちや欲求を表せるようになる。	健康安全災害	・視診・検温を実施し、健康的に過ごすために早期発見、予防に努める。 ・子どもたちの興味関心を把握し施設内の環境整備を行う。 ・防災・防犯訓練へ参加し、意思向上に取り組む。	一年間の保育に対する自己評価			
期	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）		3期（9月～12月）		4期（1月～3月）	
子どもの姿	・新しい環境への不安から、泣いて過ごす。 ・少しずつ新しい生活リズムに慣れ、好きな遊びを見つけて楽しむ。 ・戸外で遊ぶことを楽しんでいる。	・歩くことに慣れ活動範囲が広がる。自然物や身近なもの、遊具等に興味を持つ。 ・リズムに合わせ体を動かすことを楽しむ。 ・喃語や片言を盛んに発し、思いを伝えようとする。		・友だちのそばでまねをして遊んだり、名前を呼び合ったり保育者が仲立ちとなり簡単なやり取りを楽しむ。 ・走る、跳ぶ、押す、引くなど運動機能が発達し、行動範囲が広がる。 ・簡単な質問や要求に答えることができる。 ・排泄を伝え、トイレに行く。		・保育者に手伝ってもらいながら、簡単な身の周りのことを自分でしようとする。 ・保育士や友だちとごっこ遊びや見立てあそびを楽しむ。	
ねらい	・新しい環境や園生活のリズムに慣れる。 ・保育者のそばで、一人ひとりのリズムに合わせた生活環境の下、安心して快適に過ごす。 ・戸外で身体を動かしたり、探索したりすることを楽しむ。 ・保育者との関わりを楽しむ中で、好きな遊びを見つけて楽しむ。	・快適で心地よい環境で保育士に見守られ楽しく過ごす。 ・食事や着脱などの簡単な身の回りのことに興味をもち、保育者と一緒にしようとする。 ・保育者や友だちの言葉に興味をもち、真似たりやり取りしたりして楽しむ。 ・水・砂・土など身近な自然に触れ夏の遊びを楽しむ。 ・保育者や友だちと体を動かす遊びを楽しむ。		・一人ひとりのこだわりや思いを受け止め、心地よく生活できるようにする。 ・保育者に見守られながら簡単な身の周りのことを自分でしようとする。 ・保育者や友だちと言葉を使って簡単なやり取りをして楽しむ。 ・秋から冬の自然に触れ、季節の変化を感じる。		・寒い時期の健康に留意し、環境を整え快適に過ごせるようにする。 ・簡単な身の周りのことを自分でしようとし、出来た喜びを味わう。 ・様々な遊びを通して、新たなことへ興味・関心をもち言葉でのやり取りをしながら、試したり使ったりして遊ぶ。 ・冬の季節を感じながら冬ならではの遊びを楽しむ。	
養護 （生命の保持・情緒の安定）	・安全で清潔な環境を整え、快適に過ごせるようにする。 ・一人ひとりの発育・発達状態生活リズムを把握し、無理なく新しい生活に慣れていけるようにする。 ・あたたかなやり取りやスキンシップを心掛け、安心して過ごせるようにする。	・体調の変化に十分留意し、水分補給・休息をとりながら、梅雨時期や暑い夏を健康に過ごせるようにする。 ・水遊びや戸外遊びの後はゆったりと過ごすなどして、静と動の活動バランスや調和をとる。 ・一人ひとりの気持ちを受け止め共感しながら、継続的な信頼関係を築く。		・寒暖差に留意し、室温・湿度の管理、衣服の調節を行い快適に過ごせるようにする。 ・食事や排泄、着脱などの身の回りのことについて、意欲的に取り組めるよう、一人ひとりにとって適切な援助を心掛ける。		・身の回りのことを自分でしたいという気持ちを受け止め達成感を味わえるように見守ったり、働きかけたりする。 ・遊びや活動の展開に応じて環境を整え、一人ひとりの子どもと楽しさを共有しながら、主体的に取り組む姿を育んでいけるように関わる。	
				・信頼を基盤に自分の気持ちを安心して表すことが出来るようにする。		・安心できる関係の中で、意欲的に過ごせるようにする。	
教育 （健康●・人間関係◆・環境▲・言葉■・表現★）	●自分で食べることを楽しむ。 ●◆保育士に生理的欲求や不安を受け止めてもらい安心して過ごす。 ●◆保育士に見守られながら安心して眠る。 ◆▲保育士とふれあい遊びをしたり、保育士と一緒に自分の好きな遊びを楽しんだりする。 ▲戸外や保育室を探索する。 ■▲◆保育士に絵本を読んでもらうことを楽しみにする。 ★◆保育士と歌を歌ったり、体を動かすことを楽しむ。	●▲スプーンを使って、自分で食べようとする。 ●着脱に興味を示し、自分でやってみようとする。 ◆保育士の援助を受けながら一緒に遊ぶ中で、友だちへの		●スプーンを使って自分から意欲的に食べようとする。 ●◆保育士に見守られたり、手伝ってもらったりしながら自分で着脱しようとする。		●一人で食べられることに満足感や達成感を持つ。 ●◆着脱や排泄など、身の回りの自分でできることを進んで行おうとする。	
		興味が増し、関わりを持とうとする。 ◆保育士と気持ちが通じ合う嬉しさを感じ、やり取りをしようとする。 ▲気に入った場所や遊びを見つけ、じっくり楽しむ。 ■▲好きな絵本を繰り返し見たり、簡単な言葉を模倣したりして楽しむ。 ★▲水・砂・泥などの感触を楽しむ。		●保育士に見守られながら、自分で手を洗おうとする。 ●◆保育士に誘われてトイレに行き排尿しようとする。 ◆保育士や友だちと簡単なやり取りをし、一緒に遊ぶ。 ▲全身を使う遊びや手指を使う遊びを楽しむ。 ▲秋の自然に興味関心を持って探索活動を楽しむ。 ■◆自分の思いを言葉や身振り手振りで伝えようとする。		◆■みたて・つもり遊びを楽しみ、保育士や友だちとやり取りをしながら一緒に遊ぶ。 ▲冬の自然に興味をもち、やってみようとする。 ▲●◆春の訪れを感じながら、保育士や友だちと戸外でたっぷり遊ぶ。 ▲■生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りをし、自分なりの言葉で思いを伝えようとする。	
環境構成 援助 配慮	○一人ひとりの心身の状態を把握し、体調や気分に応じて無理なく生活を送れるようにする。 ○安心して過ごせるように、保育士が不安や要求を受け止め、信頼関係を築いていく。	○子どもの健康状態に留意し、休息と活動のバランスに気をつけ、健康に過ごせるようにする。 ○遊びを通して友だちとの関わりを体験できるように、玩具の種類や数を十分に用意する。		○出来たことの満足感を味わえるように、やってみたい気持ちを受け止め、時間を十分にとり、見守り、一緒に行う。 ○身体を十分に動かすことのできる遊びや周囲の安全な環境を工夫し一緒に楽しむ。		○出来るようになったことを一緒に喜び、主体的に生活をする意欲へとつなげていく。 ○子ども同士の簡単な言葉でのやりとりを楽しめるように、様子に合わせて働きかけ援助する。	

	○好きな遊びが出来るように、おもちゃや場所を準備し、危険の無いように見守る。	○安心できる雰囲気を作り、落ち着いて身の回りのことをやってみようと思えるよう環境設定を行う。	○自己主張する姿を肯定的に受け止め、一人ひとりと丁寧に関わり、自分なりに表現できるようにする。	○尿意を訴えたら即座に反応し、対応する。 ○集中して遊べるような環境設定を行う。
--	--	--	---	---

期	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）	3期（9月～12月）	4期（1月～3月）
子育て支援 （保護者支援）	・送迎時や連絡帳のやり取りで日中の様子を知らせたり、疑問に応えたりして、不安が和らぐよう丁寧に関わる。	・気温や湿度、夏の疲れなどで生活リズムが崩れやすいので、園と家庭で食事や睡眠の様子を伝え合い、心地よく過ごせるようにする。 ・感染症が流行する時期なので、疾病に関する状況を正しく伝えたり、子どもの様子をこまめに伝え合ったりし、予防や早期発見に努める。	・行事を通して、園での子どもの様子を見てもらい、成長を実感し喜び合う。 ・着脱や排泄してみようとする姿や援助するポイントなどを伝え、家庭で行うときの参考になるようにする。	・一年間を振り返り、子どもの成長を保護者とともに喜び合い、進級を楽しみに出来るように様子を伝える。 ・自分で身の回りのことをしようとする姿の援助のポイントを伝え、子どもの意欲に応じて行けるようにする。
食育	・保育士に見守られ安心して食事を食べる。 ・いろいろ食材に慣れる。 ・食事のあとは手や口を拭いてもらい、きれいになった心地よさを感じる。	・いろいろな食べ物を見る、触れる、味わうことを通して食に関心を持つ。 （低月月齢時は手づかみ食べを十分に経験する。） ・よく噛んで最後まで食べようとする。 ・コップの水をこぼさずに飲もうとする。	・保育士や友だちと一緒に楽しい雰囲気の中意欲的に食べる。 ・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをする。	・スプーンやフォークの正しい持ち方を知り、楽しい雰囲気自分から進んで食べる。 ・出来るだけ最後まで自分で食べようとする。
長時間保育	・安全な環境の下、担当保育士と安心して触れ合う。	・異年齢児交流を図りながら、家庭的な雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごす。	・日が短くなると不安になる子もいるため、安心して過ごせるよう配慮する。	・感染症の流行する時期なので、一人ひとりの体調を把握し、担当保育士と連携し早期発見に努める。
年齢別研修	<div> <div> <div>テーマ</div> <div>「すこやかな育ち」</div> </div> <div> <div>サブテーマ</div> <div>「保育の質の向上」</div> </div> <div> <div>内容</div> <div>「各年齢の発達を捉えた記録の書き方を学ぶ」</div> </div> <div>※園内研修として実施していく</div> <div></div> </div>			
自己評価				

令和5年度 2歳児 年間指導計画 さきたま保育園

		園長		副園長		担任	
年間目標	・自分の思いや欲求を出し、安心して過ごす。 ・生活に必要な身の回りのことを自分でしようとする。 ・保育士や友達と関わり、遊ぶことを楽しむ。 ・生活や遊びを通して、言葉のやり取りや表現する楽しさを味わう。	健康安全災害	・地震や火事を想定し、避難訓練に取り組み、避難方法を身に付ける。 ・絵本や紙芝居を通して、交通ルールを身に付ける	一年間の保育に対する自己評価			
期	1期（4月～5月）	2期（6月～8月）		3期（9月～12月）	4期（1月～3月）		
子どもの姿	●新しい環境のなかで、不安や緊張はあるものの、持ち上がりの保育士や顔見知りの友達、遊び慣れたおもちゃで遊んでいる。 ●落ち着いて食事をする子もいれば、手づかみや立ち歩きをする子もいる。 ●保育士に誘われてトイレで排泄するが、ときには嫌がることもある。 ●簡単な衣服の着脱を自分でしようとするが、できないときは知らせてくる。 ●砂場やバンバンなど、好きなことを見つけて体を動かして遊んでいる。 ●園庭で見つけた草花や虫を、見たり触ったりして喜ぶ。	●園生活に慣れ、落ち着いて生活し、行動範囲も広がってきている。 ●暑くなってきて食欲が落ち、水分を多く欲しがる子が増えてくる。 ●トイレで排泄し、パンツに移行する子がいる。 ●自分で着替えようとするが、思うようにできない子もいる。 ●水や泥遊びなどを思い切り楽しむが、なかには汚れることを嫌がる子もいる。 ●「友達と一緒に」がうれしく、同じことをしようとするが、物の取り合いをしたり、思い通りにならないときは泣いたり叩いたりすることもある。		●運動量が増え、自分で意欲的に食事をする。 ●苦手な物も保育士に励まされ、少しずつ食べようとする。 ●尿意・便意を感じ自分から知らせ、トイレに行くようになる。 ●行動が活発になり、いろいろな遊びに興味を示し、しようとする。 ●気の合った友達との遊びが持続するようになってくるが、自己主張によるぶつかり合いも多い。 ●保育士や友達と曲に合わせて体を動かしたり、歌をうたったりして喜ぶ。	●気の合う友達と一緒に食べることを喜び、箸にも興味を持っている。 ●自分で布団に入って眠ったり、トイレでの排泄や、着替えたりするなど、身の回りのことがほぼ身に付いている。 ●友達との関りが活発になり、大勢で遊ぶことを楽しむようになる。 ●異年齢児に関心を持ち、まねをして一緒に遊んでいる。 ●語彙数が増え、楽しかった体験などを保育士や友達に言葉で伝えようとする。 ●少し寒くても元気に遊んでいる。		
ねらい	・新しい環境に慣れ、安心して生活したり遊んだりする。 ・保育士に手伝われながら、簡単な身の回りのことをしようとする。 ・春の自然のなかで、のびのびと体を動かして遊びを楽しむ。	・適切に休息をとりながら、梅雨時季や暑い時期を健康で快適に過ごす。 ・保育士に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。 ・夏の遊びを十分に楽しみ、開放感を味わう。 ・保育士や友達と関わって遊びながら、興味や経験を広げていく。		・簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ・十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・保育士や友達と一緒に、模倣や表現遊びを楽しむ。 ・秋の自然に触れ、関心を持つ。	・身の回りのことをする喜びを感じる。 ・ごっこ遊びや集団遊びなどを通して、友達と遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分の思いを言葉で伝えたり、やり取りをしたりしながら遊ぶ。 ・冬の自然現象に興味を持ち、触れて楽しむ。		
養護 （生命の保持・情緒の安定）	・保育士に援助してもらいながら、簡単な身の回りのことを意欲的にする。 ・不安や欲求を保育士に受け止めてもらい、安心して生活する。	・水分補給や休息に配慮しながら、夏の遊びを十分に楽しみ体力を付ける。 ・保育士が仲立ちしながら、友達と遊ぶ楽しさを感じられるようにする。		・一人ひとりの成長に合わせ、援助をしながら基本的生活習慣の習得に意欲を持たせていく。 ・集団生活に必要な決まりを覚え、順番を守ることや、おもちゃの貸し借りができるようにする。	・一人ひとりの成長に合わせて、達成感を感じられるように前向きな言葉をかけ、自信を持たせていく。 ・生活リズムを大切にし、寒さに負けない体力を付ける。		
教育 （健康・人間関係・環境・言葉・表現）	・生活リズムを整え、安定した生活を送れるようにする。 ・友達や保育士と安定した関わりを持ち、言葉を増やす。 ・新しい自分のロッカーを覚え、持ち物の管理の仕方を知る。 ・友達や保育士の名前を覚え、生活に必要な言葉も、遊びを通して習得する。 ・歌やリズム遊びで、体をたくさん使って表現することを楽しむ。	・暑さに負けないよう水分補給や休息を十分に取り、体調の変化に注意していく。 ・友達との関わりの中で、相手の気持ちに気付かせていく。 ・水遊びや色水遊びなど、夏ならではの遊びを楽しむ。 ・絵本や紙芝居、会話等をする中でのやり取りを楽しみ、言葉を増やしていく。 ・楽器や体操、ダンスなどで、簡単なリズムを楽しむ。		・戸外から戻ったら、うがい手洗いを習慣にし、体調管理をしっかり行う。 ・行事を通して、友達と一緒に活動する楽しさを知り、達成感を味わっていく。 ・秋の自然を見たり触れたりして、五感で感じる。 ・絵本や、伝承遊びなどを通して、たくさんの言葉に触れながら、会話も楽しむ。	・戸外に出て元気に遊び、友達と一緒に楽しむ。 ・鼻水が出たら自分で拭く（鼻をかむ）ことを伝える。 ・友達との関わりが深まる反面、トラブルも多くなるため、友達の話に耳を傾け、気持ちを言葉で伝えることを促し、思いやりの気持ちを育んでいく。 ・見たり聞いたりしたことを自分で言葉にできるように働きかけ、会話をする楽しさを知る。		
環境構成 援助 配慮	・一人ひとりの不安や緊張を受け止め、ゆったりとした雰囲気の中で過ごせるよう、生活や遊びの場を清潔で安全に整える。 ・一人ひとりの排尿間隔を把握し、トイレへ誘うようにする。 ・簡単な身の回りのことを一緒にしやすいよう、タオル掛けやロッカー、かご等に個人用マークを貼る。 ・興味を持つような遊びや、遊び慣れたおもちゃを準備しておき、安心して遊べるように配慮する。 ・季節の歌をうたって楽しんだり、眠るときにオルゴール音楽を流したりして心地よく過ごし、ゆったりと関わる。 ・春の自然に触れたり、体を動かしたりして遊ぶ機会を多く持つ。	・風通しや室温、健康状態などに気を配り、水分補給や休息を十分に行う。 ・自分でできたときは一緒に喜び、手伝いが必要なときはさりげなく手を添え、自分でしようとする気持ちを大切にし、さらに意欲を育んでいく。 ・トイレは、一人ひとりの排尿間隔に合わせて声をかけ、トイレに行けるようにする。 ・水あそび用のおもちゃなどを用意し、十分楽しめるようにする。 ・紙皿やストロー、カラーポリ袋などの素材を準備し、見立て遊びやごっこ遊びを楽しめるようにする。 ・友達と関わって楽しめるよう、保育士も一緒に遊び、言葉が足りないときには代弁をしながら、相手の気持ちに気付けるよう根気強く関わる。		・全身を使った活発な遊びが多くなるため、安全な環境を整え、必要に応じて水分や休息を十分にとれるように配慮する。 ・自分で身の回りのことがしやすいよう、環境を見直すとともに、意欲を大切にし、一人ひとりに応じた援助をしながら、できたことを十分に褒め、認めていく。 ・友達と関わる遊びが多くなり、トラブルも増えるため、互いの気持ちを受け止めながら、話をよく聞いて仲立ちをし、関わり方を丁寧に知らせる。 ・イメージを広げてごっこ遊びを十分に楽しめるよう、保育士が仲間に加わり、遊具や場の工夫をして、遊びが発展するように援助していく。 ・幼児組の運動会練習を見ることで、年上の子の活動に興味を示したり、まねをしたりしながら、曲に合わせて体を動かすことが楽しめるようにする。 ・秋の自然に触れながら、ごっこ遊び等が楽しめるよう、環境の準備設定をしていく。	・手洗いやうがいなど風邪の予防に努め、室温や湿度を確認し、換気に気を配っていく。 ・年上の子との交流を増やすことで、クラス担任同士で連携をとりながら、幼児クラスの生活を知らせ、安心できるようにする。 ・保育士も一緒に遊びながら、集団遊びや追いかけての楽しさに共感していく。 ・子どもが意欲的に模倣やごっこ遊びが楽しめるよう、用意や設定をしていく。 ・子どもの話したいことや、やりたいことを聞いて意欲をくみ取り、言葉で表現しようとする気持ちを満たすようにする。 ・冬の自然に触れて楽しむ機会を大切にする。		

期	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～1 2 月）	4 期（1 月～3 月）
子育て支援 （保護者支援）	・園での様子を伝えながら、信頼関係を深めていく。	・日々の様子を伝え合い、夏の時期の体調管理についても知らせていく。	・着脱しやすい衣服や、使いやすい持ち物を持ってきてもらい、意欲を持って身の回りのことを自分でできるようにしていく。	・発達や成長の様子を伝え、喜び合いながら不安なく進級できるように連携していく。
食育	・友達や保育士と一緒に楽しく食べる。 ・食事に必要な基本的な態度（着席、あいさつ等）や習慣を身に付ける。 ○自分で食べようとする意欲を大切にし、楽しい雰囲気作りを心がける。	・手洗いの仕方を身に付け、清潔な手で食べる。 ・苦手なものも「ちょっとだけ食べみようね」と声をかけ、食べられたり、食べようとしたりした時には、大いに褒め、次のやる気や意欲へつなげていく。 ○保育士も一緒に楽しく食事をしながら、体調や食事の量、食材の大きさ等、個人差に合わせ、こまめに対応していく。また、スプーンやフォークの使い方を見ていく。	<div>→</div> ・様々な食材をよく噛んで食べる。 ・食事の前の衛生管理の仕方を少しずつ意識する。 ○きれいに食べられるよう励ましたり、声かけをしたりして意欲的に食べられるよう促していく。	・食習慣の基礎を身に付け、みんなで一緒に食べることを喜び、楽しく食事をする。 ・苦手なものも、少しだけ食べてみようとする。 ○食事では個人差を配慮し、一人ひとりに応じた援助をしながら自信につなげ食習慣の基礎が身に付くようにする。
長時間保育	・安全な環境の下、担当保育士と安心して触れ合う。	・異年齢児交流を図りながら、家庭的な雰囲気の中でゆったりとした時間を過ごす。	・日が短くなると不安になる子もいるため、安心して過ごせるよう配慮する。	・感染症の流行する時期なので、一人ひとりの体調を把握し、担当保育士と連携し早期発見に努める。
年齢別研修				
自己評価				

令和5年度 3歳児 年間指導計画 さきたま保育園

令和5年度 3歳児 年間指導計画				園長		副園長		担任	
年間目標	・園生活の流れや生活の仕方が分かり、自分の身の回りのことをしようとする。 ・自分の興味や関心、思いを自分なりの方法で表現する。 ・保育者や友達に親しみをもち、友達と触れ合いながら、安心して自分のしたい遊びに取り組む。			健康安全災害	○受け入れ時、受け入れ後の十分な視診をする。 ○事故やけがに合わないよう、危険な行為や遊ぶときの約束を繰り返し確認する。 ○避難訓練を通して、災害時に安全に避難する方法を身につける。		一年間の保育に対する自己評価		
期	1期（4月～5月）			2期（6月～8月）		3期（9月～12月）			4期（1月～3月）
子どもの姿	○新しい環境に不安を感じ、泣いてしまう子がいる。 ○朝の支度では、保育者と一緒に行く。 ○好きな遊びを見つけ、保育者や友達と一緒に楽しむ。 ○自分で食べ進めるが、食事の量やスピードなどの個人差があり、時間がかかる子もいる。 ○排泄の間隔が定まっていない子がいる。			○保育者に親しみ、気持ちが安定し、新しい活動に楽しく参加する。 ○園生活に慣れ、できることは自分でしようとする。 ○固定遊具や玩具に興味を示し、友達とふれあいながら、自分の好きな遊びに楽しんで取り組む。		○身の回りの始末や排泄など基本的な生活習慣を自分でしようとするが、まだ個人差がある。 ○友達と一緒に同じ遊びをする楽しさを感じ、友達との関わりが深まる。そのため、自分の思いや考えを通そうとして、トラブルが起こることもある。			○身の回りのことや生活に必要なことなど、自分でしようとし、できたことを喜ぶ。 ○体験したことや自分の気持ちなど言葉で伝える楽しさを感じる。 ○安定した気持ちで園生活を送るようになり、気の合う友達と一緒に活動する楽しさを味わう。
ねらい	○園生活の流れを知り、園の生活リズムに慣れる。 ○保育者に気持ちを受け止めてもらいながら、安心して過ごす。 ○園の遊具や玩具に興味を持ち、自分から遊びようとする。			○園での生活の仕方が分かり、簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自分の好きな遊びを十分に楽しみながら、友達のしていることにも興味を示し、かかわろうとする。 ○水や砂の感触を楽しみながら、伸び伸びと遊ぶ。		○遊びや生活の中で、決まりや約束があることを知り、守ろうとする。 ○友達と一緒に伸び伸びと体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。（運動遊びも含む） ○友達と遊びを共有する中で、話したり、聞いたりして会話を楽しむ。			○基本的な生活習慣が身に付き、自信を持って生活する。 ○友達とかかわりながら活動する楽しさを味わう。 ○進級する喜びと期待を持って生活する。
養護 （生命の保持・ 情緒の安定）	○安定した雰囲気の中で一人ひとりに応じた休息を十分に取る。 ○子どもたちの不安な気持ちを汲み取り、一人ひとりが安心して過ごせるようにする。 ○手洗いうがいをしっかり行い、換気や加湿、清掃などで、感染予防に努める。			○十分な休息や水分補給を行いながら、体を動かすことを楽しめるようにする。 ○自分の思いを保育者に受け止めてもらい、共感してもらうことで安心して過ごす。		○活動や運動量に合わせて休息を十分にとり、子どもの体調管理をしていく。 ○一人ひとりの姿を認め、励ましながら子どものやる気を引き出し、満足感が味わえるようにする。			○感染症などで体調を崩しやすい時期なので、一人ひとりの体調を把握し予防に努める。 ○一人ひとりの子どもが、充実した園生活を送れているか把握し、個々の成長を認め、自信が持てるようにする。
教育 （健康・人間関係・環境・ 言葉・表現）	○基本的な生活の仕方を知り、保育者に手伝ってもらいながらも自分でしようとする。 ○保育者や友達に親しみ、安心感を持って遊ぶ。 ○春の草花や虫などを見たり触れたりして、自然に興味・関心を持つ。 ○したいこと・してほしいことを保育者に動作や言葉で伝えようとする。 ○保育者や友達と一緒に歌や手遊びをしたり、体を動かして遊んだりする。			○遊びや生活を通して、簡単な決まりや約束を知り、守ろうとする。 ○友達のすることを見たり、まねしたりしながら一緒に遊ぼうとする。 ○水遊びや戸外遊び（砂遊び・泥遊び）など、解放感を味わえる遊びを十分に楽しむ。 ○保育者や友達に言葉で伝える楽しさを味わう。 ○曲に合わせてリズムをとったり、体を動かしたり、簡単な身体表現をしたりして楽しむ。		○生活の仕方がわかり、自分でできることを進んでやろうとする。 ○保育者や友達と、簡単なルールのある遊びをして楽しむ。 ○木の葉、木の実などを集め、それらを使って、いろいろな遊びをする。 ○友達と関わって遊ぶ中で、相手の気持ちを知らうとする。 ○絵本や紙芝居、童話等を通して、イメージを持って楽しみ、見たり聞いたりする。 ○絵本や紙芝居からイメージを広げ、友達と色々な表現を楽しむ。			○1日の生活の流れが身に付き、見通しを持って過ごすことができる。 ○生活や遊びの中でルールや約束を守る大切さを知る。 ○友達と一緒に行動したり、活動したりする楽しさを感じる。 ○全身を使った遊びを十分行い、寒くても活動的に元気良く過ごそうとする。 ○生活や遊びの中で感じたことや考えたことを言葉にして伝えようとする。
環境構成 援助 配慮	○室内外を安全で清潔に整備し、子どもたちが安心して使用できるようにする。 ○個人マークを付け、支度・食事・排泄など繰り返し行い、安心して身につけられるようにする。 ○子どもたちの不安な気持ちを受け止め、小さなサインも見逃さないようにする。 ○好きな遊びを見つけられるように、保育者も一緒に遊び、興味を持てるような声かけをする。 ○季節の絵本や歌などで自然に親しみが持てるようにする。			○暑さ対策として、帽子の着用、日陰での遊び、適切な室温（冷房の使用など）、適度な水分補給と休息を取れるような配慮をする。 ○簡単な身の回りのことは、「自分で」という思いを大切にしながらも、必要に応じて手伝う。 ○水遊びを通して、水の危険性を繰り返し伝えていくと共に、安全に楽しく遊べるよう発達や興味に合った環境を作っていく。 ○子どもの言葉や表情から思いを受け止めたり、共感したりしながら関わっていく。 ○物の取り扱いなどのトラブルが出てくるため、互いの気持ちを受け止めたり、代弁したりして友達とのかかわりが楽しいものになるように配慮する。		○色々な行事に無理なく参加できるよう、取り組み方を工夫する。 ○意欲を持って取り組んでいる事を十分に認めながら、友達と一緒に取り組む心地良さや充実感を味わえるようにする。 ○自然の中で見つけた物（木の葉、木の実など）を利用して造形遊びを楽しめるようにする。 ○子ども同士のトラブルには、お互いの気持ちや言い分をゆったりと受け止め、相手の立場や思いに気づかせていく。			○暖房、換気、寒さへの対策をするなど、安全、健康な環境に留意する。 ○基本的な生活習慣が身についたか確認し、一人ひとりの自立に向けて援助していく。 ○子ども同士で一緒に遊べるような環境を用意し、保育者も一緒に輪に入りながら必要に応じて言葉を掛けていく。 ○4歳児の姿を見せ、保育室を見学するなどして進級することに期待が持てるようにする。

期	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～1 2 月）	4 期（1 月～3 月）
子育て支援 （保護者支援）	○子どもを初めて集団生活に入れる保護者の思いや不安な気持ちを受け止め、子育ての大切さや喜びなどに共感し、信頼関係を築いていく。 ○書類や申し送り、面談などで事前に家庭の状況をよく把握しておく。 ○保護者に安心してもらえるよう、園での様子を話したり、家庭の様子を聞いたりする。	○保育見学や個人面談で、園や家庭での子どもの姿について話す機会を持ち、成長や困っている事などを共有、共感し安心して子育てできるようにしていく。 ○夏の生活の仕方、基本的生活習慣の大切さを知らせる。 ○体の清潔や着脱しやすい服装の準備などに配慮しながら、夏の健康に関心をもてるよう連絡を深める。	○寒さに向かったの健康管理の大切さや、生活習慣の見直しなどを知らせていく。 ○子どもの姿をクラスだよりで知らせ、共に喜びあえるようにする。（行事や日々の様子を通して成長している姿、頑張って取り組む姿を知らせる）	○一年の成長の姿を伝え、保護者と喜びを共有する。 ○感染症などが流行しやすい時期になるので、予防や早期対応をしてもらうようお願いする。
食育	○給食やおやつを友達や保育者と楽しく食べる。 ○箸やスプーンを正しく持って食べる事を意識する。	○色々な食材に興味を持ち、食べてみようとする。	○楽しい雰囲気の中で、自分の苦手な物も、少しずつ食べてみる。	
	○給食の中の旬の食材を知らせると共に、食に興味を持てるようにする。	○きりん組、ばんび組が栽培している野菜を観察し、野菜に興味を持つ。	○箸を持つことに慣れ、保育者に見守られながら箸で食べようとする。	○色々な食材を口にし、体との関係性があることを知る。
長時間保育	○遊びを選択できるよう複数の遊びを設定し、自分の好きな遊びをゆったりとした気持ちで遊ぶ環境を作る。			
	○新入児や転園児で初めて利用する子どもが不安にならないよう一人ひとりの気持ちを受け止める。	○室温や湿度の調節をしたり、水分補給を促したりして、快適に過ごせるようにする。	○異年齢児と関わって遊べるような玩具も用意し、楽しく過ごせるようにする。	○自分から進んで片付けができるよう援助する。 ○風邪やインフルエンザも流行する時期なので、一人ひとりの体調を把握し、担当職員と連携する。
年齢別研修	テーマ「すこやかな育ち」 サブテーマ「保育の質の向上」 内容「子供を尊重する保育」のために			
自己評価				

令和5年度 4歳児 年間指導計画 さきたま保育園

				園 長		副 園 長		担 任	
年間目標	○園生活に慣れ、喜んでいろいろな活動に取り組み、日常生活に必要な習慣や態度を身につける。 ○豊かな経験を通して生活に必要な言葉を身につける。 ○遊びの経験を広げ、いろいろな方法で表現する。	健康 安全 災害	○自らの体や健康に関心を持ち心身の機能を高め発達を促す。 ○定期的に避難訓練を行い、保護者との密接な連携を務め連絡体制等の確認を行う。 ○危険な場所や危ない行動が分かり、安全に過ごそうとする。	一年間の保育に対する自己評価					
期	1期（4月～5月）		2期（6月～8月）		3期（9月～12月）		4期（1月～3月）		
子どもの姿	・新しい環境に楽しみを感じつつも不安感を持ったり、緊張したりする姿がみられる。次第に保育士に安心感を持って生活ができるようになる。 ・園生活の1日の流れが分かり、保育者の声がけで行おうとする。 ・友達と一緒に遊ぶ子もいれば、不安で保育士の周りにいる子もいる。 ・昆虫や草花に興味を持ち、友達と一緒に観察する。		・生活範囲が広がり、活発に活動するようになる。 ・周囲の子への関心が出てきて、真似したり、遊んだりすることを楽しむ。 ・「疲れたから休む」「暑いから着替える」など、自ら気づいて行おうとする。 ・戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを経験しながら安全な遊具の使い方を知る。 ・身近な生き物や植物に興味を示し、友達と一緒に観察したりする。		・全身運動が活発になり、色々な運動をすることを喜ぶ。友だちと身体を動かしていく心地よさを味わう。 ・友だちとの関わりを通して生活の決まりや遊びのルールの大切さを知り、守ろうとする。 ・季節の自然物を遊びに取り入れて遊ぶ。 ・気の合う友達との遊びを通して、自分の気持ちを相手に伝えたり、話を聞いたりして、友達と遊ぶ楽しさを味わう。		・新しい活動にも進んで取り組み、試したり工夫したりして遊ぶ。5歳児クラスになる期待を高めながら遊びや生活習慣にいて自主的に取り組む態度が見られる。 ・決まりを守る大切さが分かってきて、ルールのある遊びも楽しめるようになる。 ・遊びを通して自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりして、友達と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。		
ねらい	・園生活に慣れ保育士に親しみを感じて安心して過ごす。 ・生活の仕方が分かり、できることは自分でしようとする。 ・自分で好きな場所や遊具、遊びを見つけて自分から遊ぶ楽しさを味わう。 ・十分に体を動かして、のびのびと遊ぶ。		・梅雨時や夏の生活の仕方を知り、健康に過ごす。 ・水遊びや身近な自然に触れ、開放感のある遊びを楽しむ。 ・身の回りのことを自分で行い、健康に過ごす。 ・異年齢児や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・植物に親しみ、関心や愛情を持つ。		・色々な運動遊びを通して様々な体の動きを楽しむ ・ルールを守ることの大切さを知り、守ろうとする。 また、友だちと関わる中で自分の思いを言葉で伝えようとする。 ・季節の変化に応じた生活の仕方を身に着ける。 ・様々な素材や用具の使い方を知る。		・進級することへの期待を持つ。 ・自分でできることは自分で行い、生活する態度を身につける。 ・いろいろな遊びに興味をもち、保育士や友達と関わり、意欲的に活動に参加する。 ・自分の思ったことや考えたことを言葉で相手に伝えようとする。		
養護 （生命の保持・ 情緒の安定）	・保育士に温かく受け止められながら触れ合う中で安心感を得て、園生活の楽しさや生活の仕方を知る。 ・食事・着脱・排泄など基本的な園での生活の仕方を知り、自分でしようとする。 ・保育士や友達と一緒に思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・早寝早起きや食事、排泄、咳エチケット、手洗い等、基本的生活習慣を知る。 ・交通の決まりや安全な歩行や避難の仕方を知る。		・雨が続く日や暑い日の生活の仕方を知る。 ・一人ひとりの子どもを理解し、気持ちを受け止められた喜びが感じられるように働きかけをして信頼感を深めていく。 ・快適に休息がとれるように活動の時間や流れ、場の工夫をする。 ・身近な自然との触れ合いの中で、機会を捉えて生長や命に気付くようになる。		・保育士や友達と一緒に体を動かし、表現する中で楽しさを味わう。 ・友達と一緒に遊んだり関わったりすることを楽しみながらも、自分の思い通りにいかないことも体験し、葛藤する思いを保育士に受け止めてもらうことで、気持ちが安定する。		・基本的生活習慣を身に付け、自分で見通しを持って行動することに自信が持つ。 ・相手との思いが通じ合わない場面では、様子を見ながら双方の気持ちを受け止め、相手の気持ちに気付けるようにする。 ・病気の予防や事故防止への意識を持って過ごせるようにする。		
教育 （健康・人間関係・環境・言葉・表現）	・十分に身体を動かし、様々な遊びを楽しむ。 ・生活の流れやきまりを理解し、身の回りのことを自分で行う。また、日常生活に必要な挨拶をする。 ・保育士や友達とのやり取りを楽しむ。 ・園の遊具や用具に親しみ、安全な遊び方や扱い方を知る。また、それを使って遊ぶことを楽しむ。 ・してほしいことや困った事などを保育士に色々な方法で伝える。 ・思い思いに描いたり作ったりすることを楽しむ。 ・園外保育などを通して交通ルールに意識を向けるとともに、安全に過ごすために必要な決まりを確認する。		・簡単なルールのある遊びを楽しむ。 ・友達に親しみをもち同じことをしたり関わったりして遊ぶ。 ・日常生活や友達との遊びの中で必要な言葉の使い方に気づく。 ・したいことやしてほしいこと、思ったことなどを保育者や友達に言葉で伝える。 ・水や砂、土の感覚を味わいながら自分なりに試したり発見したりして楽しむ。 ・野菜を育てることに興味をもち、収穫を楽しむ。 ・具体的な物を通して、数や量、色や形などに関心を持つ。		・体を十分に動かしたり、休息したりして健康な生活に必要な習慣を身につける。 ・簡単な決まりやルールの大切さを知り、守ろうとする。 ・色々な遊具や用具を使い、戸外で体を動かして遊ぶ事を楽しむ。 ・安全な遊び方や災害時の行動の仕方を知り、気を付けて行動する。 ・したこと、見たこと、考えたこと感じたことを保育士や友達に話す。また友だちの話も聞こうとする。 ・絵本や童話などを喜んで見たり、聞いたり、ストーリーを再現したりして、いろいろな表現を楽しむ。 ・身近な出来事に関心を持ち、生活に取り入れる。		・進級への期待を持つ。 ・自分なりの目当てや見通しをもって行動する。 ・友だちと生活する中で決まりの大切さに気付く。 ・園内で安全に過ごすために必要な決まりを確認する。 ・冬から春にかけての自然事象に興味関心を持ち感動したり疑問を持ったりする。 ・自分の思ったこと考えたことを言葉で伝え、また保育士や友だちの話を最後まで聞こうとする。 ・生活や遊びの中で、数量や図形、文字等に関心を持つ。 ・いろいろな方法で表現して遊ぶことを楽しむ。		
環境構成 援助 配慮	・子どもたちの緊張と不安を十分受け止め、触れ合う中で安心感を与える。また、園生活の楽しさや生活の仕方が分かるように丁寧に関わる。 ・子どもが話しやすい雰囲気を作るようにし、保育者が子どもの話に共感することで、自分の思いを伝える楽しさを感じられるようにしていく。 ・固定遊具で遊ぶ際の約束を無理なく守れる内容に子どもたちと繰り返し確認する。 ・好きなことが見つかったら、少人数でじっくり取り組めるような場を作り安心して遊べるようにする。 ・交通安全や、身の回りの危険予防について関心を持てるよう、絵本や紙芝居を読み聞かせるなどの工夫をする。		・梅雨時期の過ごし方を伝え、自分の健康に関心を持てるようにする。水分補給や休憩、帽子的着用などに気付けるよう声をかけていく。 ・友達や異年齢児との接し方や遊びへの参加の仕方が分かるように、場面を捉えて保育者が仲立ちとなり援助する。 ・子ども一人ひとりの発達状態を理解し、伝えたい気持ちを大切にしながら見守ったり、仲立ちしたりする。 ・一人ひとりが十分に水遊びを楽しめるよう、おもちゃなどを用意する。また、安全のための約束事を分かりやすく伝える。 ・育てている野菜の生長に関心が向くよう、保育者が生長したところを伝えたり、扱い方を知らせたりしながら、命の尊さを伝えていく。		・保育士と子どもと一緒に体を動かし、運動遊びの楽しさを味わえるような日常の体験を重ねて、運動会や発表会へ繋がっていくことを大切ににする。 ・やり遂げる満足感、達成する経験が味わえるようにする。 ・衣服の調節や手洗い、うがいの大切さを知らせ、習慣として身につくように援助していく。 ・クラスのみんなでできる鬼ごっこやゲームなど場を調整して繰り返しできる環境づくりをする。 ・一人ひとりの子どもがそれぞれの興味に応じた活動に取り組めるよう、色々な素材や用具を用意し、やってみようとする意欲が持てるようにする。 ・自然事象に興味が深まるよう、保育者自身が身近な事象を敏感に受け止めながら子どもの感動や発想を引き出していく。		・5歳児へのあこがれの気持ちを大切にし、進級に期待を持てるようにする。 ・生活の様々な場面で、自らが危険な場所や遊び方を考え、理解し、判断しながら安全な行動を選択できるように援助する。 ・身の回りのことを自分から行う姿を大いに褒め自信に繋げ、個々に応じた援助をしていく。 ・友だちと思いがぶつかり合った時には、自分の気持ちを整理できるように見守りながら、保育者が仲立ちし、相手の気持ちを知らせ、子どもの心の安定に配慮した援助をする。 ・一人ひとりの思いや、自己表現の面白さが、その子らしさということが伝わるよう、クラスの雰囲気づくりをし、自信と自己肯定感が育まれるようにしていく。		

期	1 期（4 月～5 月）	2 期（6 月～8 月）	3 期（9 月～1 2 月）	4 期（1 月～3 月）
子育て支援 （保護者支援）	<ul style="list-style-type: none"> ・園と家庭の様子を伝え合いながら子どもの成長を支え合うことができるよう関係を作る。 ・保護者の不安や疑問には丁寧に対応し、家庭の信頼関係を築く。 ・登園時の健康観察や保護者との会話で、子どもの体調について互いに把握し、健康管理に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のいざこざなどは、発達の自然な姿で成長の機会であることを知らせ、理解協力を求めている。 ・園での生活や遊びの様子を通して、子どもの成長を相互理解し、共に子育てをして、信頼関係を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立を焦らず、甘えたい気持ちを十分に受容することや、スキンシップが大切だということを伝えていく。 ・行事を通して成長した姿を伝え、喜びを共有する。 ・子どもの取り組もうとしている意欲など、子どもの姿を理解しやすいよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長の姿を具体的に保護者に知らせ、保育士と保護者で成長の喜びを共有する。 ・基本的な生活習慣や態度、遊び方、友だち関係、日常生活の仕方など、保護者の不安や疑問を受け止めるとともに、進級についての課題について保護者とともに考え、期待が持てるようにしていく。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や保育士と楽しい雰囲気の中食事をする。 ・食事のマナーや姿勢を知る。 ・様々な食べ物を進んで食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食器の置き方や並べ方を知り、やってみようとする。 ・野菜の生長に気付き、収穫の喜びを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物と体のしくみを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体に興味をもち、健康に過ごすために、好き嫌いなく何でも食べる。 ・伝統的な食文化に親しみをもつ。
長時間保育	<ul style="list-style-type: none"> ・環境や人の変化に伴い緊張や不安を感じる子どももいるため、一人ひとりの生活リズムを把握し、甘えを受け止め、落ち着いて生活できるようにしていく。 ・職員間の連携を密にして、子どもが安心して過ごせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・厳しい暑さや湿気、急に涼しくなるなどの変化によって疲れも出てくるため、一人ひとりの様子を注意して見守り、静と動のバランスを考えながら生活をしていく。 ・気温や湿度が高いので、室温や通風に配慮し水分補給を十分に心掛け、熱中症予防に配慮していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動量が増えるため、一人ひとりの体調に合わせてゆったり過ごせるようにしていく。 ・日没時間がだんだんと早まり、気温が低くなり、寂しい気持ちにもなるため、温かく楽しい雰囲気の中で過ごせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進級に向けての緊張や不安を感じることも多くなるので、友達とゆったり過ごしたり、ひとりで集中して遊んだりするものも用意しておく。
年齢別研修	テーマ「すこやかな育ち」 サブテーマ「保育の質の向上」 内容「子どもを尊重する保育」			
自己評価				

令和5年度 5歳児 年間指導計画 さきたま保育園

				園 長		副 園 長		担 任	
年間目標	◎健康的な生活リズムを身に着け、友達と体を十分に動かし、心地よさや楽しさを味わい進んで運動する。 ◎様々な体験を通して、主体的に行動したり、みんなで協力したりする充実感を味わい、自分に自信を持って生活する。 ◎生活の中で必要な言葉を身に着け、自分の気持ちを表現するとともに、伝わる喜びや伝え合う心地よさを味わう。			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目		ア)健康な心と体 イ)自立心 ウ)協同性 エ)道徳性・規範意識芽生え オ)社会生活との関わり カ)思考力の芽生え キ)自然との関わり・生命尊重 ク)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ケ)言葉による伝え合い コ)豊かな感性と表現			
小学校との連携 (小学校教育との接続)	・保育所保育要録を作成し、送付する。 ・小学校の先生と意見交換や合同研修の機会を設け、引き継ぎを行う。		健康 安全 災害	・自らの体や健康に関心をもち、心身の機能を高め発達を促す。 ・危険な場所を知り、安全な過ごし方を知る。 ・安全な遊び方や、災害時の行動の仕方を知り行動する。			一年間の保育に対する 自己評価		
期	1期（4月～5月）		2期（6月～8月）			3期（9月～12月）		4期（1月～3月）	
子どもの姿	・年長になったことの喜びや期待から、意欲をもって活動に取り組もうとする。 ・新しい生活や環境に緊張感や不安感をもつ子もいる。 ・身の回りのことはほとんど自分で出来るが、新しいやり方にも慣れていこうとする。 ・年下の子の世話をしたり、一緒にあそんだりしながら、親しみをもつ。 ・戸外で活動することを好み、活動量も多くなる。 ・春の自然に関わりながら、季節を楽しむ。		・気の合う友達と活動したりあそんだりするが、考えや思いの違いからけんかが起こることもある。 ・気候によって自ら衣類で体温調節をしたり、日陰にて休もうとしたりすることもある。 ・当番活動への意欲が高まり、積極的に行動する。 ・身近な動植物への興味・関心をもち、世話をしたり、本などで調べたりする。 ・夏のあそびを楽しみ、身近な自然への興味が深まる。			・友達と同じ目的を持ち、工夫したり、協力したりしながら、自分達の力で活動を進めようとする。 ・運動会を経験し、仲間意識が芽生え、友達との関わりに広がりが出てくる。 ・様々な運動あそびへの関心が高まり、難しいことも諦めず、自分なりの目標をもって意欲的に取り組もうとする。 ・相手の思いや考えに気づきながらも自己主張をする。 ・自然の変化に気づき、あそびに取り入れて楽しんでいる。		・大まかな見通しをもって生活しようとする。 ・あそびの内容が豊かになり、また、友達の思いや考えを受け入れようとする姿が増える。 ・就学への意識が高まり、生活やあそびに意欲的に取り組む子もいるが、不安を感じている子もいる。	
ねらい	○保育士や友達と一緒に、年長組になった意識や自覚をもって行動しようとする。 ○新しい生活や環境に慣れ、友達とのあそびや生活を楽しもうとする。 ○進んで体を動かす心地よさや楽しさを体験し、健康な体作りに取り組む。 ○年下の子の世話をしたり、一緒にあそんだりしながら、親しみをもつ。 ○公共のマナーを理解し行動しようとする。 ○春の自然に関わりながら、季節を楽しむ。		○梅雨や夏の生活の仕方が分かり、健康に過ごす。 ○見通しをもって活動に取り組もうとする。 ○友達と目的をもって試したり、考えたりしてあそびや活動を楽しむ。 ○自分の力を十分に発揮して運動やあそびに取り組む。 ○身近な自然に触れ、そのおもしろさ、不思議さ、美しさを友達と伝え合う。			○目的に向かって自分の力を発揮したり、協力し合ったりして達成する楽しさを味わう。 ○自分たちで考えたことを、あそびの中で実現したり表現したりして楽しむ。 ○戸外で体を動かし、友達と一緒にルールを守りながら遊びや生活を進める楽しさを味わう。 ○身近な自然に興味・関心をもち、あそびに取り入れて楽しむ。		○自分の体や健康に関心をもち、必要な生活習慣を身につける。 ○友達と共通の目的をもって、協力し合いながら自分たちで生活やあそびを進めていく充実感を味わう。 ○就学への自信や期待をもち、見通しや目標をもって園生活を十分に楽しむ。	
養護 (生命の保持・ 情緒の安定)	・一人ひとりの健康状態を把握し、流行性の感染症予防に努め、安全で健康な生活が送れるようにする。 ・新しい環境での生活に慣れ、安心して過ごせるようにする。 ・何かに挑戦したい気持ちや、やってみたい意欲を認めていく。 ・友達や保育士と安心して関われるような雰囲気づくりをする。 ・気温や活動に合わせて衣服の調節を気かけ、着脱を自分で行おうとする。 ・異年齢の友達と関わりをもち、やさしい態度で接しようとする。 ・自分で考えながら生活が送れるように声かけをする。		・梅雨を通して雲の動きや雨上がりの様子に興味をもつ。 ・自分の健康や体について関心を持って食べ物、運動、生活リズムの大切さに気付き、夏を健康に過ごせるようにする。 ・一度にたくさん飲み過ぎない、こまめに水分を取るなど水分補給の際に気を付けることを知る。 ・友達とのつながりを深めるために保育者も仲間に加わりアイディアを提供したりし、相手の気持ちを感じ取ることが出来るようにする。 ・水あそびでは、水に十分親しみを持てるようにするとともに、水の危険性についても知る。 ・一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、自己肯定感を育む。			・健康な生活をするための仕方を理解し、衣服の調節や手洗いうがいなどを進んで行う。 ・毎日の生活を、子ども自身が見通しをもちながら行う。 ・日々の様々な出来事について一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、場面や機会を捉えて周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりする。 ・活動意欲の高まりとともに生じる競争心や達成感を認め、自信が持てるようにする。		・気候に応じて自分で衣服を着脱し、衣服の整頓・管理まで丁寧に行う。 ・友達の良さや自分の良さに気づき、お互いに認め合いながら心地よく過ごす。 ・休み中の楽しかったことや、思い出を保育者や友達に話し、伝える喜びを味わう。 ・友達と話をする中で自分の考えを伝えると共に、相手の意見も聞き、認め合う心地よさを味わう。	
教育 (健康・人間関係・環境・言葉・表現)	・挨拶や返事を元気にしようとする。 ・活動の手順が分かり、友達と協力しながらやってみようとする。 ・生活の仕方や新しい場の使い方が分かり、自分でしようとする。 ・友達と一緒に、いろいろな運動遊び(雑巾がけ・ハードルなどを力いっぱい楽しむ。 ・4歳児クラスのときのあそびを繰り返したり、昨年度の5歳児がしていたあそびに取り組んだりする。 ・友達や保育者に自分の思いを伝え、相手の話を聞こうとする。 ・年下の子に親しみをもって世話をする。 ・生活の中や、絵本・紙芝居を通して公共のマナーを理解し、周りのことを考えて行動する。 ・戸外の自然に触れ、美しさや季節の変化を知る。 ・歌を歌ったり、楽器を使った活動を楽しむ。		・雨の日や暑い時季の生活の仕方を知り、快適に過ごす。 ・自分なりに目標をもって挑戦していこうとする。 ・あそびに必要なものを友達と考え、試したり工夫したりしながら、協力し合って作る。 ・自分の体験したことや感動したことを言葉で伝えたり、友達の思いも聞いたり受け入れたりする。 ・自分の言いたい事を相手に分かるように話すとともに、友達の話すことにも関心を持ち、聞こうとする。 ・水あそびのルールを守り、友達と一緒に夏のあそびを楽しむ。 ・当番活動で水やりをし、植物の生長を楽しむ。 ・話の展開に興味をもって聞き、保育者や友達と一緒に楽しむ。			・友達と積極的に体を動かす活動を取り組み、ルールを守って一緒にあそぶ充実感を味わう。 ・自分なりの目標を決め、友達と協力し合って物事をやり遂げようとする。 ・友達の頑張りや良さに気づき、認め合っていく。 ・友達との関わりの中で、相手の気持ちに気づき受け止めたり、言葉を通したりして心を通わせる。 ・経験したことや感じたこと、想像したことを描いたり演じたりして、様々な方法で自由に表現して楽しむ。 ・自然物を遊びに取り入れ、友達と工夫して遊ぶ。 ・日常生活を通して、数量や図形、時間に関心を持つ。		・健康で安全に過ごす方法を知り、自分で考えて行動する。 ・友達とイメージや思いを話し合いながら、あそびに必要な物を作ったり、ルールを工夫したりして、意欲的にあそぶ。 ・自分の思いを伝え、相手の思いに気づき、折り合いをつけてあそびを進める。 ・身の回りの文字や数などに興味をもち、生活やあそびに取り入れて楽しむ。 ・卒園準備や行事を通して、就学に期待をもつ。 ・冬の自然事象に関心をもったり、動植物の様子から春の訪れに気づいたりする。	

環境構成 援助 配慮	<ul style="list-style-type: none">生活や活動の手順を確認し、保育士が実際に一緒にしながら、できたことを認めるなど、不安をもっている子にも配慮する。道具の使い方や片付け方は、環境が新しくなったことをきっかけに、方法や約束を確認し分かりやすく繰り返し伝えていく。子ども同士で落ち着いて気持ちを伝え合えるよう、場所を設けたり、必要に応じて保育者が仲立ちをしたりする。他のクラスとの連携を取り、戸外あそび（自由あそび）時に、年下の子と関わりがもてるようにし、保育士も関わりながら年下の子に優しく関わろうとする気持ちを引き出したり、関わり方を知らせたりする。春の植物に触れるなかで、子どもの新たな発見や驚きに共感し、興味をもって楽しめるよう、使える道具を準備する。楽器など見える場所に設置し、興味関心を持てるように環境を整えていく。	<ul style="list-style-type: none">汗の始末や水分補給、休息の大切さを知らせ、自分から行動できるようにする。チャレンジカードを用意し、挑戦した頑張りが視覚的に分かるようにする。経験したことを友達や保育士に話したり、友達の話を聞いたりする時間を設ける。子ども達が互いにイメージを出し合ってあそべるよう、保育士もあそびに参加しながら、必要なものを作るようにするとともに、子どもの気づきに共感する。水あそびの約束事や準備・片付けの手順を思い出せるよう絵カードを使って話をし、あそびのなかで自分なりに楽しめるようにする。身近な自然に触れ、疑問に思ったことなどを調べられるように自然に関する本を用意しておき、興味がもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none">行事の前にはその意味や内容を伝え、見通しをもてるように働きかけ、自主的に取り組めるようにする。友達と工夫して一緒に活動が進められるよう、用具や材料を準備しておく。運動会や発表会を通して自分の力を発揮し、目標を達成する心地よさや、友達と競ったり協力したりする楽しさが味わえるようにする。目標に向かって取り組むなかで、頑張っている姿を認めたり、その姿を周りの子にも知らせたりすることで、互いに認め合えるようにしていく。いろいろな経験を、製作遊びや表現遊びに取り入れ、自由に表現することを楽しめるようにする。秋の自然に触れながら、あそびの中に取り入れる姿に共感し、季節の変化を楽しめるようにする。	<ul style="list-style-type: none">自分の体に関心をもち、健康的な生活習慣が身につくように再確認する。また、身の回りのことが自分できるよう、必要なところを援助していく。友達とイメージを共有できるような場を作り、必要に応じて仲介しながら、共通の目的に向かって協力し、やり遂げる満足感や充実感を味わえるようにする。思いが相手に伝わる喜びを味わえるよう、自分の感情をコントロールすることや、相手の気持ちを考えながら聞いたり話したりするように伝えていく。正月あそびをきっかけに、文字や数を遊びや環境のなかに取り入れていき、興味がもてるようにする。卒園に向けて行事や準備に取り組むなかで、園生活を振り返る機会をもち、身近な人や物に感謝の気持ちをもてるようにする。就学への期待や不安を受け止め、自信をもって園生活を楽しめるようにする。自然に関わる機会を多くもち、子どもの気づきや発見に共感していく。
------------------	---	--	--	---

期	1 期（４月～５月）	2 期（６月～８月）	3 期（９月～１２月）	4 期（１月～３月）
子育て支援 （保護者支援）	<ul style="list-style-type: none">今年度の保育方針・主な取り組みについて、お便りや面談で知らせ、保護者と園が連携して子どもに関われるようにする。年長組になって張り切っている姿や自分でやろうとしている姿を話して、保護者との信頼関係を（徐々に）築いていき、認めることの大切さを伝えていく。	<ul style="list-style-type: none">気温の変化から体調を崩しやすい子もいるので、体調管理について家庭と密に連絡を取り合う。保護者の気持ちを十分に受け止め、困ったときは相談できるよう、信頼関係を築いていく。	<ul style="list-style-type: none">いろいろな活動を通して、子どもが成長している姿を保護者に知らせ、保護者とともに喜び合う。「目に見える部分」だけでなく、しようとする姿やその意欲が子どもの充実感や自信につながることを保護者に伝える。	<ul style="list-style-type: none">保護者と連携をとり、生活習慣の自立、生活リズムの見直しなどをしながら、子どもの成長を喜び合う。就学に不安がある保護者には、就学先の各小学校と連携していることを伝え、安心感をもてるようにする。
食育	<ul style="list-style-type: none">気持ちよく食事をするためのマナーを知り、楽しい雰囲気です食事をする。給食室の食材を見たり、献立メニューを聞いたりしながら様々な食材への興味をもつ。三角食べを意識してバランス良く食事しようとする。	<ul style="list-style-type: none">自分の体と食べ物のつながりや体の仕組みを知る。食具の使い方に気を付けながら食べようとする。	<ul style="list-style-type: none">野菜を育てて収穫し味わうなかで、食べ物を大切にする気持ちをもつ。食具の使い方に気を付けながら食べようとする。自分の体と食べ物の関係に関心をもち、食材の種類や働きを知る。	<div>→</div> <ul style="list-style-type: none">体の仕組みと食べ物の働きを知り、赤・黄・緑の食べ物をバランスよく食べることの重要性を知る。食事のマナーを守り、時間の見通しをもちながら楽しく食べる。様々な食材や料理する人への感謝の気持ちをもち、おいしく食べる。
長時間保育	<ul style="list-style-type: none">環境や人の変化に伴い緊張や不安を感じる子どももいるため、一人ひとりの生活リズムを把握し、甘えを受け止め、落ち着いて生活できるようにしていく。職員間の連携を密にして、子どもが安心して過ごせるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">厳しい暑さや湿気、急に涼しくなるなどの変化によって疲れも出てくるため、一人ひとりの様子を注意して見守り、静と動のバランスを考えながら生活をしていく。気温や湿度が高いので、室温や通風に配慮し水分補給を十分に心掛け、熱中症予防に配慮していく。	<ul style="list-style-type: none">活動量が増えるため、一人ひとりの体調に合わせてゆったり過ごせるようにしていく。日没時間がだんだんと早まり、気温が低くなり、寂しい気持ちにもなるため、温かく楽しい雰囲気の中で過ごせるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">進級や卒園に向けての緊張や不安を感じることも多くなるので、友達とゆったり過ごしたり、ひとりで集中してあそんだりするものも用意しておく。
年齢別研修	テーマ「すこやかな育ち」 サブテーマ「保育の質の向上」 内容「子供を尊重する保育」			<div>→</div>
自己評価				